

- ・経腸栄養ライン接続部関連製品
- ・注射筒型手動式医薬品および針
- ・輸液ポンプ・シリンジポンプ

＊医療事故対策適合品マーク

厚生労働省により、新たに安全性基準が設定された医療用具について、医療事故防止対策品であることが医療現場において容易に見分けることができるように業界自主基準として適合品マークを貼付することになっています。

このマークの貼付の可否については、医療事故対策の基準に基づいて厚生労働省からの製造〔輸入〕承認を取得し、日本医療器材工業会の医療事故対策適合品マーク評価委員会から適合マーク貼付が適合と判断されたものについて貼付されます。

表示マークデザイン



(20) 安全に配慮した医療機器・設備の例

◎輸液ポンプ、シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、フットポンプ類（表 35）

輸液ポンプ（例：テルフェージョン輸液ポンプ TE-161S）、シリンジポンプ、フットポンプ（例：A-V インパルスシステム、パノストリーム）

◎ITを活用した安全機器・設備類（表 36）

バーコード照合システム（注射・点滴管理、患者識別等の目的のためのバーコード読み取り用）、PDA（電子カルテ携帯端末）、インシデント（・アクシデント）レポートシステム

◎マット類、その他（表 37）

エアマット、コールマットコードレス、体動監視装置（おき太君）、体動監視装置（うーご君）HB-T、体動監視装置（コールマット・コードレス）HCR、体動監視装置（転倒むし）NTM-2、体動監視装置（離床コール）、エアロガーディアン、エアマット、褥瘡防止マ

ット、点滴スタンド 5 本足、ベビーアンス、徘徊コール、安全キャビネット、離床センサー、ナースコールマット、抑制帯、低床ベッド、セントラルモニター、ベッドすわるセンサー、ボディサポート、褥瘡予防マット、マットセンサー、クリーンベンチ

(21) 安全に配慮した薬剤について、使用目的別に分類した例

⇒ 別添の「記入票」上の薬剤リスト（表 38～表 40）を参照。

◎誤薬・汚染防止を目的とした薬剤（表 38）

◎自己注射に伴う過量投与防止を目的とした薬剤（表 39）

◎職業感染防止を目的とした薬剤（表 40）

⇒ 次の質問項目である「院内の職業感染防止対策にかかる予防接種および抗体検査等に要するコスト」を参照。

* もしリストに掲載されていない安全薬剤をご使用の場合は、表 38～表 39 の下の欄外にご記入ください。

■ 院内の職業感染防止対策にかかる予防接種および抗体検査等に要するコスト

(22) ワクチンの 1 回あたり種類別投与コストおよび検査コスト（単位：円）については、診療報酬上の点数に 10 を乗じた数値をご記入ください。診療報酬上の点数につきましては、事務部門（医事課等）の担当者にご確認ください。

* もし表 40 に掲載されていないワクチンをご使用の場合は、表の下の欄外にご記入ください。
（自由記載）

■ 感染性医療廃棄物（特別管理産業廃棄物）の処理にかかるコスト

(23) ②において、通常の産業廃棄物処理の外部委託とは別に、特別管理産業廃棄物である感染性医療廃棄物の取扱い許可を受けている業者に委託している場合は、それぞれの産廃業者への支払実績額をそのままご記入ください。

一方、感染性医療廃棄物処理の委託業者が、通常の産業廃棄物処理の委託先と同一の場合は、内訳として、感染性医療廃棄物処理の委託にかかる支払実績額と、通常の産業廃棄物処理の委託にかかる支払実績額を明確に分けて表示してください。

3. 「窓口相談業務の主な担当者」の個別勤務実態について

(24) 表 46 の「苦情処理・窓口相談業務を担っている主たる職員」の全就業時間に占める各活動の割合（単位：％）については、前出の（2）と同様に 10%刻みでおよその数値をご記入ください。

4. 医療管理指標にかかる調査項目について

(25)・医事統計

年間在院延べ患者数とは、毎日 24 時現在の在院患者数を 1 年間で合計した数をいい、外泊中の患者は含みますが、入院した同日に退院した患者は除きます。

年間退院患者数とは、毎日の退院患者数を 1 年間で合計した数をいい、入院し多同日に退院した患者も含めます。

年間外来延べ患者数とは、新来患者数および再来患者数のほか、往診患者を含めた 1 年間について合計した数のことです。

(26)・財務指標

財務指標については、病院会計準則の適用を基本としておりますが、病院の開設主体によって適用される会計ルールが異なる場合には、上記の項目に相当すると思われる項目名を表示したうえ、当該項目の数値をご記入ください。

以 上

質問票

認定病院患者安全推進協議会 医療安全確保のためのコストに関する検討会
「医療安全確保のためのコストに関する調査」

病院名 _____ 回答者職種 ①医師 ②看護師 ③事務職 役職 _____
④その他 (_____)

【注意事項】

- ◎ 本質問票につきましては、別添の「記載要領」を参照しながら「記入票」にご記入ください。 {原則として、選択肢の場合は該当する項目の記入欄に○を付け、()内には数値をご記入ください。}
- ◎ また、以下の質問文の中に出てくる「表」(表1～表48)については、すべて別添の「記入票」に掲載されております。

I 病院基本情報〔平成18年度(平成18年9月30日時点)〕

問1. 貴院の病院機能について、表1のa～cのいずれかを選び、該当する項目の空欄に○をご記入ください。

問2. 貴院の病床の状況(稼働病床数)について、表2にご記入ください。

問3. 貴院の職員の状況(職種別職員数)について、表3にご記入ください。単位は(人)。

[お手数ですが、非常勤職員は、常勤換算してください。]

II 医療安全確保のための費目〔平成18年度分〕

問4. 医療安全確保のためのコスト(以下、医療安全コスト)の内訳について、以下、

- (1) 施設全般の医療安全確保のための活動に要する人件費
- (2) 病院全体のインシデントやアクシデントにかかるレポート等の作成に要する人件費
- (3) 医療安全確保のための研修費用
- (4) 医療安全確保(院内感染対策を含む)への貢献が期待できる器材、設備・機器、薬剤に要するコスト
- (5) 院内の職業感染防止対策にかかる予防接種および抗体検査等に要するコスト
- (6) 貴院が被保険者となって負担した賠償責任保険の保険料に要するコスト
- (7) 感染性医療廃棄物(特別管理産業廃棄物)の処理にかかるコスト
- (8) 医療安全活動にかかる施設内での専有スペースの使用コスト

の8つに分けてお尋ねいたします。

【医療コンフリクト・マネジメントの範囲について】

医療コンフリクト・マネジメントについて、今回は「医療安全活動を担っている主たる職員」等による患者や職員からの苦情（クレーム）の処理にかかるコストに調査対象を絞っており、訴訟関連費用等については別の機会を捉えて調査を行うものとし除外いたしております。

■ 施設全般の医療安全確保のための活動（感染管理を含む）に要する人件費

- ① 院内に医療安全管理室を設置していますか。その設置の有無について、表4の該当する項目の記入欄に○をご記入ください。
- ② 「医療安全活動を担っている主たる職員」について、担当者各人の平均的な1ヶ月の就業時間全体（残業時間も含む）に占める各活動内容の割合（%）を表5にご記入ください。（なお、医療安全管理委員会や院内感染管理委員会など、職場横断的な協議組織にかかる活動状況については、後ほど、ご質問させていただきます。）
- ③ 平成18年度（平成18年4月1日～平成19年3月31日）に貴院で開催された、医療安全管理に直接関係しているとお考えになっている会議等の名称を挙げ、実際に参加した1回あたりの平均的人数について、職種別に表6にご記入ください。〔なお、①で「医療安全活動を担っている主たる職員」としてカウントされた方は除いてください。〕
- ④ ③の医療安全管理にかかる職場横断的な会議とは別に、施設全般にかかる感染対策などについての検討・助言等を行う職場横断的な会議の、平成18年度（平成18年4月1日～平成19年3月31日）における開催状況について、表6と同様の要領で、職種別に表7にご記入ください。〔なお、①で「医療安全活動を担っている主たる職員」としてカウントされた方は除いてください。〕
- ⑤ ③および④の質問に関連して、施設全般にかかる医薬品安全管理についての検討・助言等を行う職場横断的な会議の、平成18年度（平成18年4月1日～平成19年3月31日）における開催状況について、表6および表7と同様に、職種別に表8にご記入ください。〔なお、①で「医療安全活動を担っている主たる職員」としてカウントされた方は除いてください。〕
- ⑥ ③～⑤の質問に関連して、施設全般にかかる医療機器の保守・点検管理についての検討・助言等を行う職場横断的な会議の、平成18年度（平成18年4月1日～平成19年3月31日）における開催状況について、表6～表8と同様に、職種別に表9にご記入ください。〔なお、①で「医療安全活動を担っている主たる職員」としてカウントされた方は除いてください。〕

- ⑦ ③～⑥の質問に関連して、施設全般にかかる誤嚥・褥そう予防についての検討・助言等を行う職場横断的な会議の、平成18年度（平成18年4月1日～平成19年3月31日）における開催状況について、表6～表9と同様に、職種別に表10にご記入ください。[なお、①で「医療安全活動を担っている主たる職員」としてカウントされた方は除いてください。]
- ⑧ ③～⑦の質問に関連して、施設全般にかかる患者・職員からの苦情処理についての検討・助言等を行う職場横断的な会議の、平成18年度（平成18年4月1日～平成19年3月31日）における開催状況について、表6～表10と同様に、職種別に表11にご記入ください。[なお、①で「医療安全活動を担っている主たる職員」としてカウントされた方は除いてください。]
- ⑨ 以上、③～⑧までの施設全般にかかる職場横断的な協議組織とは別に、現場のリスク・マネージャーを中心に、部門別に医療安全管理などにかかる会議を実施している場合、平成18年度（平成18年4月1日～平成19年3月31日）の会議の開催状況について表12～表14にご記入ください。[なお、①で「医療安全活動を担っている主たる職員」としてカウントされた方は除いてください。]
- ⑩ 施設全般にかかる職場横断的な実践活動チームである、感染制御チーム（ICT）、栄養サポートチーム（NST）、褥創対策チーム、医療機器安全管理対策チーム、医薬品安全管理チームなどが日常的に行う、各種サーベイランス、病棟ラウンドの平成18年度（平成18年4月1日～平成19年3月31日）の開催状況について、表15にご記入ください。[なお、①で「医療安全活動を担っている主たる職員」としてカウントされた方は除いてください。]

■ 病院全体のインシデントやアクシデントにかかるレポート等の作成に要する人件費

- ① インシデントおよびアクシデント・レポートにかかる1枚（または1回）あたりの平均作成時間〔単位：時間〕について、表16中のi)にご記入ください。
また、インシデントおよびアクシデント・レポートを作成後、レポート作成者が上司と面談を行うなど、最終的に上司の承認が必要となる場合には、レポート作成後から上司によって承認を得るまでの時間について、表16中のii)にご記入ください。
- ② 平成18年度（平成18年4月1日～平成19年3月31日）における当該レポートの職種別合計提出枚数〔単位：枚〕について、表17にご記入ください。
また、表17中の「その他」の内訳については、職種名および職種別提出枚数〔単位：

枚] を表 18 にご記入ください。

■ 医療安全確保のための研修費用

以下、各質問項目についてご回答ください。

《院内研修》

- ① 平成 18 年度において院内で開催された各種の研修会に外部講師を招聘した場合の講師への謝金、交通費および宿泊費等の費用について、表 19 にご記入ください。
- ② 平成 18 年度において院内で開催された各種の研修会への職種別延べ参加人数について、表 20 にご記入ください。

《院外研修》

- ③ 平成 18 年度において院外研修へ職員を派遣した場合の研修参加費用、交通費、宿泊費等の費用について、表 21 にご記入ください。
- ④ 平成 18 年度において院外研修へ職員を派遣した場合、各研修会への職種別延べ参加人数について、表 22 にご記入ください。

なお、医療安全確保を目的とした学会への参加費用や、資格取得のための費用（例えば、医療安全に関する専門看護師、認定看護師の資格を取得する場合など）についても、この院外研修にかかる費用に含めます。

■ 医療安全確保（院内感染対策等を含む）への貢献が期待できる器材、設備・機器、薬剤に要するコスト

《医療安全に配慮した器材にかかるコスト》

- ① 平成 18 年度（あるいは、それ以前の平成 15 年度～平成 17 年度）に、医療安全確保を目的として、従前に使用していた器材を、医療安全に配慮した器材（以下、安全器材という）に切り替えたものがあれば、その年間総購入金額（単位：円；定価ベース）、月平均使用数量（単位：箱）、および具体的な器材の種類（製品名、メーカー名）について、切り替える直前直後の月のデータを表 23～表 34 にご記入ください。

《医療安全に配慮した機器・設備にかかるコスト》

- ② 平成 18 年度（あるいは、それ以前の平成 15 年度～平成 17 年度）に、医療安全確保を目的として、従前に使用していた医療機器・設備を、医療安全に配慮した医療機器・設備（以下、安全機器・設備という）に切り替えたものがあれば、その年間総購入金額（単位：円；定価ベース）、月平均使用数量（単位：箱）、および具体的な器材の種類（製品名、メーカー名）について、切り替える直前直後の月のデータを表 35～表 37 にご記入ください。

《医療安全に配慮した薬剤にかかるコスト》

- ③ 平成 18 年度（あるいは、それ以前の平成 15 年度～平成 17 年度）に、医療安全確保を目的として、従前に使用していた薬剤を、医療安全に配慮した薬剤（以下、安全薬剤という）に切り替えたものがあれば、その年間総購入金額（単位：円；定価ベース）、月平均使用数量（単位：箱）、および具体的な薬剤の種類（薬品名、メーカー名）について、切り替える直前直後の月のデータを表 38～表 39 にご記入ください。

◎誤薬・汚染防止を目的とした薬剤（表 38）

◎自己注射に伴う過量投与防止を目的とした薬剤（表 39）

◎職業感染防止を目的とした薬剤（表 40）

- * なお、表 40 については、次の質問項目である「院内の職業感染防止対策にかかる予防接種および抗体検査等に要するコスト」の表と兼ねており、そちらをご参照ください。

■ 院内の職業感染防止対策にかかる予防接種および抗体検査等に要するコスト

平成 18 年度に各種ワクチンの予防投与、および、それに関連して実施された各種検査について、それら 1 回あたりの検査コスト（単位：円）、および当該検査の延べ回数（単位：回）、ならびに、ワクチンの種類別投与コスト（単位：円）、および当該ワクチン投与の延べ回数（単位：回）、加えて、上記のワクチン接種にかかる検査・投与コストに占める病院の各負担割合（負担率；単位：％）について、表 40 にご記入ください。

■ 貴院が被保険者となって負担した賠償責任保険の保険料に要するコスト

平成 18 年度の①法人分の保険料（医療業務賠償責任保険）の支払実績額、②医師個人が加入する医師賠償責任保険に対する法人の負担額について、表 41 にご記入ください。

■ 感染性医療廃棄物（特別管理産業廃棄物）の処理にかかるコスト

感染性医療廃棄物の処理について、処理の状況とコストをご記入ください。

- ① 感染性廃棄物の処理状況について、表 42 の a または b のいずれかを選び、該当する空欄に○をご記入ください。（平成 18 年 9 月 30 日現在）
- ② ①で a を選択された場合、平成 18 年度において、感染性医療廃棄物処理の取扱い許可を受けている産廃業者への支払実績額について、通常の産業廃棄物処理にかかる支払実績額とともに、表 43 にご記入ください。
- ③ ①で b を選択された場合、感染性医療廃棄物を院内で処理または中間処理する場合、特別の機器や設備（焼却設備や溶融設備など）を利用している場合には、表 44 にご記入ください。

■ 医療安全活動にかかる施設内での専有スペースの使用コスト

医療安全活動を実践するに際して、施設内で専有スペースを使用している場合（例；

医療安全管理者が常駐する医療安全管理室、クリーンベンチ設置室など)、当該スペースにかかる費用負担を算出するため、必要項目について、表 45 にそれぞれご記入ください。

Ⅲ. 「窓口相談業務の主な担当者」の個別勤務実態

問 5. 「窓口相談業務の主な担当者」の活動について、(a)窓口相談業務での活動（苦情処理活動、苦情処理以外の活動）、(b)窓口相談業務以外の活動に分けたうえで、それぞれの活動が、担当者各人の平均的な 1 ヶ月の就業時間全体（残業時間も含む）に占める割合（%）を表 46 にご記入ください。

Ⅳ. 平成 18 年度の医療管理指標

問 6. 貴院における平成 18 年度の医療管理指標（医事統計、財務指標）について、表 47 にご記入ください。

以上、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。